

私のめざす兵庫

—3つの重点目標と県民との75の約束—

令和3年6月1日

かなざわ 和夫

— 決 意 —

今までに新型コロナ対策は待ったなしです。全県民への一日も早いワクチン接種の完了、病床体制の増強、兵庫県版CDC(疾病予防管理センター)の創設など、対策に全力を尽くします。

言うまでもなく、コロナ対策は県だけで対応できるものではありません。国、市町、医療機関、民間企業などと連携し、チームとして力を発揮することが不可欠です。だからこそ、副知事時代に感染症対策本部の事務総長として、関係者とともに汗を流してきた私の経験が活きます。危機対応に空白をつくってはなりません。これまでの経験を最大限に活かし、コロナに打ち勝ちます。

もう1つの大きな挑戦は、ポストコロナ社会にふさわしい兵庫づくりです。

経済分野では、新たな成長の突破口を開かねばなりません。デジタル化の加速、世界レベルの成長産業拠点の形成、観光や農林水産業の競争力強化などの取組を大胆に進めます。

安全安心の基盤は今後さらに重要性を増します。どこよりも地震や風水害に強い防災先進地づくり、超高齢社会に対応した医療・介護体制の充実。急務の課題であるだけに、対策のスピードアップを図ります。

そして、どの人も、どの地域も、共にかがやく兵庫の実現です。私の好きな言葉に、金子みすずさんの詩の一節「みんなちがって、みんないい」があります。私には知的障害のある姉がいました。20年前に亡くなりましたが、姉と過ごした日々を振り返ると浮かぶのがこの言葉です。

だからこそ、光を一部だけに当て、影を生むことはしません。女性も、高齢者も、障害者も、外国人も、だれもが生きがいをもって輝く。摂津・播磨・但馬・丹波・淡路の五つの国が個性と強みをもって共に栄える。そんな兵庫づくりに力の限り挑みます。

私のめざす兵庫像

～新時代へ“共にかがやく兵庫”～

私のめざす兵庫像は、女性も高齢者も障害者も外国人も、誰もが生きがいをもって伸び伸びと活躍できる「共にかがやく兵庫」です。

その実現に向け、SDGsの17ゴールにも通じる社会や地域の課題に対し、県民の皆様とともに果敢に立ち向かいます。兵庫から生まれるエネルギーが新時代の風を生み、全国を吹きめぐる、そんな日本をリードする力強い兵庫をめざします。

— 3つの重点目標 —

【I】 コロナ禍を乗り越える 「経済躍動の兵庫」

コロナ禍の経済停滞から早期脱却を図ります
地域産業の新展開など、新しいチャレンジがわき上がる兵庫経済をつくります

- 中小企業の事業継続と雇用維持のための金融・財政支援を強化
- 「ポストコロナ社会創造ファンド(仮称)」を創設
- 緊急雇用対策の実施など就業先確保や生活支援を充実
- 世界レベルの成長産業拠点を形成(新素材、健康医療、水素エネルギー等)
- 全国屈指の起業・創業環境を整備(国際起業拠点地区の形成等)
- 中小企業のデジタル化支援を強化
(最先端技術を導入するスマート・インダストリー・モデル地区の整備等)
- 地場産業の新展開による兵庫発の世界ブランド戦略を推進
- 農林水産業のスマート化の加速と経営基盤の強化
- 「耕作放棄地ゼロ作戦」を展開
- 新たなツーリズム戦略を推進(瀬戸内クルーズ、万博サテライト会場等)

【II】 いのちを守り抜く 「安全先進の兵庫」

新型コロナ対策に最優先で取組みます
保健・医療・福祉の体制を充実させるとともに、自然災害に強い防災先進の兵庫をつくります

- 感染症対応病床の拡大と保健所の業務体制の強化
- 兵庫県版CDC(疾病予防管理センター)を創設
- 健康ビッグデータの活用等により健康寿命を延伸
- 県立病院の機能強化(2022年度:はりま姫路総合医療センター、2025年度:西宮病院、がんセンター)
- 24時間対応の在宅介護サービスを拡充、特養の入所待機者を解消
- 介護人材の確保対策を強化、介護ロボットの活用を促進
- 地震・津波や風水害に備えたインフラ整備や福祉避難所の拡大
- 通学路の歩車分離や自転車専用レーンの整備など交通安全対策を強化
- 太陽光やバイオマスなど地域資源を活かして再生可能エネルギーを拡大
- 液化水素大量輸入プロジェクトへの参画など水素社会を先導

【III】 どの人も、どの地域も 「共にかがやく兵庫」

誰もが自分の可能性を広げ、生きがいをもって輝ける社会をつくります
個性と強みを活かし、共に栄える五国をつくります
参画と協働を深化させ、県民と共に県政を進めます

- 早期に待機児童を解消、体験型の幼児教育を全県展開
- 子育て中の親子がいつでも気軽に集える場づくりを推進
- 将来的な30人学級の実現を見据えた少人数学級を推進
- 「ICTサポートチーム」の創設によりデジタル教育を強化
- 多様な働き方ができる環境を整備(テレワーク、時差出勤等)
- 女性、高齢者、障害者、外国人などの活躍支援を充実
- 困難を抱える人たちへの支援を強化
(ひとり親家庭、ヤングケアラー、DV、児童虐待、いじめ等)
- だれもが芸術文化、スポーツを楽しめる環境を整備
- 人口の転入増を実現(テレワーク、企業誘致、五市の魅力向上等)
- 女性副知事の登用など県庁の女性管理職比率を拡大
- 行財政改革を徹底、スマート県庁を実現、県民直接対話を充実

— 共にかがやく兵庫の実現に向けて 県民との75の約束 — (概要)

I 新型コロナ感染症対策に最優先に取組み、コロナに打ち勝つ兵庫をつくる

喫緊の課題である新型コロナ感染症の終息と経済の回復に向け、医療検査体制の充実や地域雇用・地域経済の下支えなどに最優先で取組み、県民のいのちと暮らしを守ります。

1 県民のいのちを守る「コロナ抑え込みプロジェクト」を全力で進めます

- (1) ワクチンの円滑な接種や兵庫スタイルの県民への浸透などにより「うつらない・うつきない」対策を徹底します
- (2) 検査体制の充実や積極的疫学調査の機能強化のための「コロナウイルス経路追跡チーム」の結成などにより「感染源をすぐに発見し封じ込める」対策に全力で取組みます
- (3) 「県民のいのちを守る」ため、病床や医療人材の確保、病院間ネットワークの構築など万全の態勢を構築します
- (4) 兵庫県版CDC(疾病予防管理センター)の創設など「新たなウイルス襲来に備えた」体制づくりに直ちに着手します

2 地域雇用の維持と経済の下支えなどにより県民の暮らしを守ります

- (5) コロナ禍からの「事業再生プロジェクト」を展開します
- (6) 「雇用と生活を守るプロジェクト」を推進します

II 個性と強みを活かしあい、五国がともに栄える兵庫をつくる

多様な特性や異なる文化を有する5つの国の持つ強みを活かし、補完し合いながら、一つの兵庫として大きな力を発揮する。五国がバランスよくともに栄える兵庫をつくります。

1 2025年までに人口の社会増を実現する「若者流出ストッププロジェクト」を展開します

- (7) 自立分散型社会をめざす地域創生戦略を加速させます
- (8) 移住者への魅力ある住まいの提供や情報通信技術を活かした快適な生活空間の創出に取組みます
- (9) 地元企業と若者のマッチングを強化して若者の県内定着を促進します
- (10) 国内サプライチェーンの再構築も含め、本社やオフィス等の進出を促進し、働く場を増やすことで人の流れを呼び込みます

2 五国の特性を活かし、地域の魅力をさらに高めます

- (11) 「神戸・阪神」「播磨」「但馬」「丹波」「淡路」それぞれの魅力を活かす戦略プロジェクトを新たに展開します

- (12) 五国の資源をフル活用して、兵庫の魅力を高め、国内外に発信します
- (13) 中心市街地や商店街の再生を支援し、街の賑わいをつくります
- (14) 郊外住宅地の再生を支援し、地域の活力を生み出します
- (15) まちづくりの質を高め、自然豊かで美しい街並み空間を再生します
- (16) 都市との交流を通じた多自然地域の活力再生に取組みます

3 内外との交流を拡大し、地域に賑わいを生み出します

- (17) 兵庫での感動体験を求めて人が集まる魅力的なツーリズムを提供し、旅行者満足度日本一をめざします
- (18) 内外の観光・旅行再開を見据えた受け入れ環境を強化します
- (19) ワールドマスターズゲームズの開催、大阪・関西万博に関西全体で取組みます

4 新たな出会いを生む交流の基盤を充実させます

- (20) 県内を快適に移動できる道路ネットワークの整備を進めます
- (21) 新たな物流・交流を生み出す空港・港湾の整備・活用を促進します
- (22) 地域の公共交通基盤の利用促進を進めます

III 誰もが自分の可能性を広げ、生きがいをもって一人ひとりが輝ける社会をつくる

兵庫の未来を担う人づくりを進めるとともに、誰もが自分の可能性を広げ、能力を発揮できる環境づくりを進めます。光と影をつくらない。誰もが多様な選択肢の中から自ら選び、生きがいを持って輝ける兵庫をつくります。

1 「子育てするなら兵庫プロジェクト」を展開します

- (23) 結婚・出産・子育ての不安を解消します
- (24) 待機児童ゼロ作戦をはじめとした子育てしやすい環境づくりを強化します
- (25) 子育て家庭への経済的負担の軽減を進めます
- (26) 向こう三軒両隣の精神で地域全体で子育てを支えます

2 個性を育み能力を伸ばし、多様な選択ができる教育環境をつくります

- (27) 学びの質を高め、社会でたくましく生きぬくための学力・能力を育成します
- (28) 多様な価値観を尊重できる子どもを育てるため、体験教育や対話重視、探求型教育を広げます。
- (29) 「ICT サポートチーム」の創設など、デジタル化をはじめ社会の変化に適応した教育環境を整備します
- (30) 多様な選択肢の中から自分で学びたいことを選べる学校を創ります

3 誰もが持てる力を発揮できる地域をつくります

- (31) 障害の有無などの違いに関わりなく、誰もが安心して生活できるユニバーサル社会づくりを進めます
- (32) 生活困窮者・世帯、ひとり親家庭などの自立に向けた生活、福祉、就労、住宅、教育など総合的に支援します
- (33) DV、差別、人権侵害を見逃さない社会をつくります
- (34) いじめや児童虐待を許さない社会を築きます

4 芸術やスポーツの担い手が生き生きと輝き、文化として地域に根付く環境をつくります

- (35) 芸術や伝統文化を守り、育て、地域で身近に楽しめる環境を充実します
- (36) 誰もがスポーツを楽しみ、挑戦できるスポーツ王国・兵庫をめざします

IV 自分らしいライフスタイルや働き方が叶う環境をつくる

「みんな違って、みんないい。」一人それぞれの価値観に応じた自分らしいライフスタイルや働き方がかなう地域をつくります。誰もが生き生きと活躍でき、共生できる社会づくりを先導します。

1 新しいライフスタイルに応じた多様な働きができる環境を整備します

- (37) 働き方を変え、豊かさが実感できるライフスタイルが広がる社会をつくります
- (38) 国内屈指の起業・創業環境を整備します
- (39) 新たなキャリアを形づくる学び直しの機会を充実します

2 女性、高齢者、障害者、外国人などの活躍を応援します

- (40) 女性が能力を発揮し活躍できる場を拡大します
- (41) 生涯現役をめざす高齢者などの活躍を後押しします
- (42) ICT の活用や農福連携などにより障害者の雇用や生活を守り、自立を支援します
- (43) 外国人も安心して暮らせる多文化共生の地域をつくります

V 新しいチャレンジがわき上がる躍動経済をつくる

コロナ禍での経済の停滞からの早期脱却を図るとともに、中小企業の新展開支援や先端技術の開発、起業・創業などに積極的に挑戦し、日本、世界をリードする躍動する兵庫経済をつくります。

1 変化に強い産業構造を構築します

(44) 世界レベルの成長産業拠点を形成します

(45) 企業の危機管理の強化を支援します

2 地域産業の新展開を支援し、元気企業を育てます

(46) 中小企業のコロナ禍からの再起支援やデジタル化支援を強化します

(47) 地場産業の新展開など五国発のブランド戦略を展開します

3 力強い農林水産業を確立します

(48) 農林水産業のスマート化を加速します

(49) 農林水産業の経営基盤を強化し、競争力を高めます

(50) 県産品の流通を広げます

(51) 農地の保全・活用に向け、「耕作放棄地ゼロ作戦」を展開します

VI 県民のいのちと暮らしを守る安全先進の兵庫をつくる

頻発する風水害や南海トラフ地震、感染症などあらゆる危機に対応し、県民のいのちと暮らしを守り、どこよりも安全安心で快適な兵庫をつくります。

1 県民のいのちと健康を守る基盤を整えます

(52) 健康寿命の延伸をめざし、県民の健康づくりを支援します

(53) 認知症の予防・早期発見と認知症ケアの連携体制を強化します

(54) 自殺者ゼロを究極の目標に、自殺防止対策などこころの健康づくりを進めます

(55) どこに住んでいても充実した医療を受けられる体制を整備します

(56) 県立病院を中心とした地域医療体制をさらに充実します

2 2025年問題を乗り越える「生涯あんしん兵庫プロジェクト」を全力で進めます

(57) 高齢者の介護予防を積極的に進めます

(58) 施設、在宅両面からの介護体制を強化し、最期の時まで自分らしく暮らせる地域をつくります

(59) 介護人材の確保・定着、処遇改善を強化します。

3 自然災害から県民のいのちを守り、世界の防災先進地をめざします

(60) 地震・津波対策を急ぎ、南海トラフ地震など危機に備えます

(61) 総合的な治水対策で頻発する風水害の被害を減らします

(62) 老朽化する社会基盤のメンテナンスを計画的に進めます

(63) 阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かし、地域の自主防災力を高め、災害に対処できるしなやかな地域をつくります

4 県民の身近に迫る危機を早期に察知し、安全な地域をつくります

(64) 地域の身近な異変を察知し、犯罪を抑止します

(65) 交通事故を徹底的に減らす取組を進めます

5 人と自然との共生を深化させ、快適な環境を創造します

(66) 低炭素から脱炭素に向けた兵庫独自の温暖化対策を推進します

(67) 地域資源を活用した再生可能エネルギーの利用を促進します

(68) 暮らしの中での資源循環の取組を強化します

(69) 豊かで美しい森・川・海づくりを充実し、人と自然との共生も深化させます

VII 絶えざる改革でしなやかなスマート県庁をつくる

改革の歩みは決して止まるものではありません。仕事のやり方を変え、単なる「コストカットではない」、県民サービスの向上を至上命題に行財政改革を進め、骨太でしなやかなスマート兵庫をつくります。

参画と協働の理念を継承発展させ、「チーム兵庫」をモットーとして常に県民と共にあり、聞く耳を持つ県政をつくります。

1 県民ニーズに的確に対応するための行財政改革を徹底します

(70) 改革と新たな施策展開を両立させ、しなやかで、スマートな県政を進めます

2 地方分権改革や規制改革を先導します

(71) 関西広域連合への権限移譲や県独自の規制緩和等を進めます

3 参画と協働を継承発展させ、「扉が開かれた県政」を進めます

(72) 県民との双方向での対話の機会を充実・強化します

(73) 県民の地域づくりへの参画を支援します

4 県庁に新たな風を吹き込みます

(74) 女性や民間人材の登用を進めます

(75) 県職員の働き方改革を推進します

かなざわ和夫 政策集

「共にかがやく兵庫」の実現に向けて

県民との75の約束

<目 次>

I	新型コロナ感染症対策に最優先に取組み、コロナに打ち勝つ兵庫をつくる	
1	県民のいのちを守る「コロナ抑え込みプロジェクト」を 全力で進めます	11
2	地域雇用の維持と経済の下支えなどにより県民の暮らしを守ります	12
II	個性と強みを活かしあい、五国がともに栄える兵庫をつくる	
1	2025年までに人口の社会増を実現する 「若者流出ストッププロジェクト」を展開します	13
2	五国の特性を活かし、地域の魅力をさらに高めます	14
3	内外との交流を拡大し、地域に賑わいを生み出します	16
4	新たな出会いを生む交流の基盤を充実させます	17
III	誰もが自分の可能性を広げ、生きがいをもって一人ひとりが輝ける社会をつくる	
1	「子育てするなら兵庫プロジェクト」を展開します	18
2	個性を育み能力を伸ばし、多様な選択ができる教育環境を つくります	19
3	誰もが持てる力を発揮できる地域をつくります	20
4	芸術やスポーツの担い手が生き生きと輝き、文化として地域に 根付く環境をつくります	21
IV	自分らしいライフスタイルや働き方が叶う環境をつくる	
1	新しいライフスタイルに応じた多様な働き方ができる環境を 整備します	23
2	女性、高齢者、障害者、外国人などの活躍を応援します	24
V	新しいチャレンジがわき上がる躍動経済をつくる	
1	変化に強い産業構造を構築します	25
2	地域産業の新展開を支援し、元気企業を育てます	25
3	力強い農林水産業を確立します	26

VI 県民のいのちと暮らしを守る安全先進の兵庫をつくる

1	県民のいのちと健康を守る基盤を整えます	28
2	2025年問題を乗り越える「生涯あんしん兵庫プロジェクト」 を全力で進めます	29
3	自然災害から県民のいのちを守り、世界の防災先進地をめざします	30
4	県民の身边に迫る危機を早期に察知し、安全な地域をつくります	31
5	人と自然との共生を深化させ、快適な環境を創造します	31

VII 絶えざる改革でしなやかなスマート県庁をつくる

1	県民ニーズに的確に対応するための行財政改革を徹底します	33
2	地方分権改革や規制改革を先導します	34
3	参画と協働を継承発展させ、「扉が開かれた県政」を進めます	34
4	県庁に新たな風を吹き込みます	35

I 新型コロナ感染症対策に最優先に取組み、コロナに打ち勝つ兵庫をつくる

喫緊の課題である新型コロナ感染症の終息と経済の回復に向け、医療検査体制の充実や地域雇用・地域経済の下支えなどに最優先で取組み、県民のいのちと暮らしを守ります。

1 県民のいのちを守る「コロナ抑え込みプロジェクト」を全力で進めます

- (1) ワクチンの円滑な接種やひょうごスタイルの県民への浸透などにより「うつらない・うつさない」対策を徹底します
- ワクチンの円滑な確保と配分、副反応などに対する専門相談体制の強化、市町が行う住民接種への支援を行うなど、県民誰もが望めば速やかに接種できる体制をつくり、一日も早いワクチン接種の完了をめざします。
- 感染予防の新しい生活様式を県民に浸透させる「ひょうごスタイル推進チーム」を創設します。必要な教育研修を受けたスタッフ（県職員のほか、離職者などの緊急雇用で人材を確保）が、啓発活動や、飲食店や事務所等におけるコロナ予防対策マニュアルの徹底要請などを行います。
- (2) 検査体制の充実や積極的疫学調査の機能強化のための「コロナウイルス経路追跡チーム」の結成などにより、「感染源をすぐに発見し封じ込める」対策に全力で取り組みます
- 新型コロナウイルス感染拡大の兆候をいち早く把握するため、最新の検査機器の導入を一層進め、PCR検査などを早期に幅広く実施できる体制を整備します。
- 政令市・中核市と連携し、全保健所内に「コロナウイルス経路追跡チーム」を結成します。教育研修の充実により、経路追跡や検体の搬送など、保健師の資格がなくても可能な業務への従事者を拡大します。
- (3) 「県民のいのちを守る」ため、病床や医療人材の確保、病院間ネットワークの構築など万全の態勢を構築します
- 感染状況に機動的に対応できる病床体制を確保します。公立病院はもとより、民間病院に陰圧室の整備を促すなど、感染症にも対応できる病床整備を支援します。
- 今後建て替える県立病院には、第二類感染症に対応できる機能を整備します。
- 全国に先駆けて開設された新型コロナウイルス入院コーディネートセンター（CCC-hyogo）を中核とした病院ネットワークをさらに強化します。
- 潜在看護師や感染症対策ができる認定看護師を登録する看護師バンクの充実や感染症版 DMAT（災害医療派遣チーム）の体制を強化し、医療人材を確保します。
- 神戸医療産業都市に集積した研究機関と連携し、新型コロナ感染症の治療に有効な中和抗体医薬品の開発研究を加速します。

(4) 兵庫県版CDC(疾病予防管理センター)の創設など「新たなウイルス襲来に備えた」体制づくりに直ちに着手します

○感染爆発も巨大災害に匹敵するものとして、防災、感染症対策を含めた兵庫県の総合的な危機管理体制の再構築を行います。SARSの教訓を活かして新型コロナの封じ込めに成功した台湾など諸外国の例も参考としつつ、兵庫県版CDC(疾病予防管理センター)の創設など直ちに準備を進めます。

○兵庫県版CDC(疾病予防管理センター)を司令塔として、政令市・中核市の保健所も含めた県内保健所の一体的な連携体制を構築します。

○潜在保健師の技能維持向上研修の機会を増やすなど保健師バンクの機能を強化するほか、保健師の人員確保にも取組みます

2 地域雇用の維持と経済の下支えなどにより県民の暮らしを守ります

(5) コロナ禍からの「事業再生プロジェクト」を展開します

○中小企業制度金融の拡大や手続きの簡素化充実など、地域経済等への影響を最小限に抑えるための支援策をより一層充実・強化します。

○中小企業等の事業継続と雇用維持のための支援策を充実します。時短営業等に関する協力金などを速やかに事業者の下に届けます。

○山田錦をはじめ、但馬牛・神戸ビーフ、花卉など、新型コロナの影響で、需要減少している農林水産物の需要拡大を支援します。

○商店街や観光協会がコロナ収束後に利用可能な割引付き商品券・宿泊券を販売する制度を創設し、消費拡大につなげるキャンペーンを展開します。

○健康、エネルギー、食、教育など、ポストコロナ社会を拓く新たなビジネスを開拓する事業者に対し、関係機関と連携して10億円以上の「ポストコロナ社会創造ファンド(仮称)」を創設し強力に支援します。

(6) 「雇用と生活を守るプロジェクト」を推進します

○とりわけ厳しい就労環境にある非正規労働者等を対象に、兵庫県版緊急雇用などの対策を展開します。

○企業面接の準備研修や就労体験などを行い、正規雇用につなげる人材育成プログラムを強化し、コロナ禍で難しくなっている大学生などの若者世代の就労を支援します。

○人手不足の事業者が人手余剰の事業者の従業員を受け入れるワークシェア(在籍出向、副業)を支援します。

○ひとり親世帯やアルバイト先を失った大学生などへの生活支援助成等を実施します。

○セーフティネットとして生活福祉資金の特例貸付を実施するほか、市町やNPOなどと連携し、当面の生活物資の配給など生活困窮者への支援を行います。

Ⅱ 個性と強みを活かしあい、五国がともに栄える兵庫をつくる

多様な特性や異なる文化を有する5つの国の持つ強みを活かし、補完し合いながら、一つの兵庫として大きな力を発揮する。五国がバランスよくともに栄える兵庫をつくります。

1 2025年までに人口の社会増を実現する「若者流出ストッププロジェクト」を開展します

(7) 自立分散型社会をめざす地域創生戦略を加速させます。

- 東京一極集中の是正を本格的に進めるため、リモートワーク、ワーケーション、地方移住、副業・兼業の促進など、地域創生戦略に掲げる施策を充実強化します。
- 「ひょうご地方創生交付金制度」を継続実施し、市町の個性ある地域づくりを支援します。

(8) 移住者への魅力ある住まいの提供や情報通信技術を活かした快適な生活空間の創出に取組みます

- 東京・大阪からのUJターンを促進するため、カムバック兵庫センターを中心とした移住から仕事まで一貫した相談体制をさらに強化します。
- お試し居住や移住定住の受け皿として、空き家改修を促進するとともに、移住支度金を交付するなど、円滑な移住生活が始められるよう移住者などの生活を支援します。
- 二地域居住など多拠点を巡るライフスタイルを支援するため、県内移動を定額で行えるサービスの導入を進めます。
- 東京圏等の企業に在籍したまま県内へ移住する人を増やすため、企業の兵庫情報スーパーハイウェイの活用促進や、移住者向けのリモートワーク環境整備を支援します。
- 多自然地域でも安心して暮らし続けられるように、遠隔授業、ドローン配送サービス、遠隔医療など情報通信技術を活用して教育、医療、福祉などの生活サービスを受けられるようにします。

(9) 地元企業と若者のマッチングを強化して若者の県内定着を促進します

- 首都圏、関西圏の大学とさらに就職支援協定の締結を進めます。これまで協定締結した大学とあわせ、県内企業情報の効果的な提供やマッチングを強化し、県内就職を促進します。
- 女性の地元就職を促進するため、女性のロールモデルの情報発信、地元企業の認知度向上、職業体験の推進、企業と学生とのマッチングを強化します。

(10) 国内サプライチェーンの再構築も含め、本社やオフィス等の進出を促進し、働く場を増やすことで人の流れを呼び込みます

○サプライチェーン強化・再構築に取組む企業の設備投資、雇用補助、法人事業税などの減免などにより積極的に支援します。

○兵庫情報スーパーハイウェイによる高速大容量通信環境など兵庫の優位性をアピールし、オフィスも含め、幅広い職種の企業誘致を展開します。

○市街化調整区域や農業振興地域における企業立地について、案件毎に丁寧に対応し、地域経済と街並み・風景などと調和のとれた街づくりを進めます。

2 五国の特性を活かし、地域の魅力をさらに高めます

(11) 「神戸・阪神」「播磨」「但馬」「丹波」「淡路」それぞれの魅力を活かす戦略プロジェクトを新たに展開します

○大阪・関西万博を見据え、集客・交流空間としての臨海部の再整備や水辺空間の活用を進める「阪神・淡路大交流プロジェクト」を展開します。

○銀の馬車道・鉱石の道の活用や伝統工芸・伝統文化を体験するメニュー開発、播磨の山城再現アプリの拡充など「播磨歴史街道プロジェクト」を進めます。

○温泉地や豊かな自然の中でのテレワークやワーケーションなど新しい働き方を追求するモデルとなる「但馬ワークプレイスプロジェクト」を具体化します。

○大都市との近接性を活かし、空き家・廃校などを活用したオフィス・起業家誘致、お試し滞在など移住・環流に誘う「たんば暮らしプロジェクト」を推進します。

○淡路の新たな食材の発掘や6次産業化により食文化を発展させ、世界に向け発信する「令和の御食国プロジェクト」に取組みます。

(12) 五国の資源をフル活用して、兵庫の魅力を高め、国内外に発信します

○六甲山のさらなる賑わいを創出するため、ビジターセンターを中心六甲山の魅力発信を強化します。六甲山ヒルクライム大会の開催に向けた取組を支援します。

○兵庫の成り立ちや五国の多様な地域資源を発信する「兵庫の津ミュージアム」の整備を着実に進めます。

○「銀の馬車道・鉱石の道」など全国最多の9つの日本遺産を地域活性化の切り札の一つとして活かします。地域の歴史文化遺産の掘り起こしを進め、日本遺産の認定をさらに増やします。

○阪神間モダニズムなどの芸術文化資源を活かしたマイクロツーリズムの振興など交流の拡大、賑わいの創出に取組みます。有馬富士公園の新宮晋氏の芸術を発信する「地球アトリエ構想」の具体化を進めます。

○明石港の砂利揚場跡地を明石市役所の再整備と合わせて進め、魚の棚商店街と一緒にとなった回遊性のあるウォーターフロント拠点として再整備します。

- 丹波・川代渓谷の化石発掘体験など恐竜化石フィールドミュージアムを推進します。
　　シユーベルティアーゼたんばなど地域に根づいた芸術文化を大事に守り育てます。
- 淡路島公園や、淡路花さじきなどの交流拠点のネットワーク化を強化し、内外からの
　　人を呼び込みます。「鳴門の渦潮」の世界遺産登録も実現します。

(13) 中心市街地や商店街の再生を支援し、街の賑わいをつくります

- 市街地をリノベーションし、商業や業務機能の集積を進めることで街に賑わいを
　　取り戻します。三宮駅周辺地区は、働くても、遊んでも、そして、歩いても楽しい
　　街に再生するため、再整備を支援します。元町山手地区についても、県庁舎等
　　再整備の再検討に合わせて、多くの人が訪れ、にぎわうエリアとなるよう検討し
　　ます。
- 空き店舗を活用した新規出店、事業承継支援を強化するほか、街づくりと一体と
　　なった商店街の再開発により、人が集まる魅力ある商店街づくりを支援します。
- 商店街など小売・飲食施設への集客力向上を図るためのイベント支援制度を充実
　　します。キャッシュレス決済の普及を図るため、機器導入補助や手数料支援を創
　　設します。地域の同業店舗の仕入れ運送の共同化、商店街の消費者への共同宅配
　　など、小規模店舗の物流効率化を支援します

(14) 郊外住宅地の再生を支援し、地域の活力を生み出します

- 空き家対策条例を制定し、放置空き家の除却と利活用を促進します。
- 狭い住宅区画のニコイチ化や菜園付き住宅へのリノベーションなど、郊外住宅団
　　地をポストコロナ社会に対応した分散居住の受け皿として再整備します。

(15) まちづくりの質を高め、自然豊かで美しい街並み空間を再生します。

- 地域の実情に応じたまちづくりを進めるため、開発を促進する地域と抑制する地
　　域を分けており、いわゆる線引きを含め、都市計画の大膽な見直しを行います。
- 大都市としての兵庫ブランドを強化します。木陰やせせらぎのある、歩いて心地
　　良い道づくりや電線類の地中化を進め、潤いのある市街地を作ります。良好で快
　　適な生活環境を創出するため、街路樹の育成、透水性舗装の普及、壁面緑化など
　　自然豊かな街並み空間の形成、市街地のヒートアイランド化を食い止めます。

(16) 都市との交流を通じた多自然地域の活力再生に取組みます

- 都市との交流により小規模集落の再生を進める地域再生大作戦を強化します。特に、
　　地域おこし協力隊の増強などにより、都市住民の流入を拡大します。
- 多自然地域の古民家や廃校の再生を支援し、移住や交流のための拠点施設として
　　活用します。集落のコミュニティの相互扶助の仕組みを活かして、買い物、家事代行
　　などの生活支援サービスの起業化を支援します。

3 内外との交流を拡大し、地域に賑わいを生み出します

(17) 兵庫での感動体験を求めて人が集まる魅力的なツーリズムを提供し、旅行者満足度日本一をめざします。

○滞在型観光を増やすため、日本一数の多い9つの日本遺産をはじめ、旧五国からなる多彩な地域性、山、川、海の多様な自然、地域に根付く様々な産業、伝統文化を生かした新時代ツーリズムを展開し、交流人口を拡大します。

- ・各地の自然・文化・暮らしを体感できるマイクロツーリズム
- ・世界に誇る安藤建築や、産業・科学インフラ等を巡るサイエンスツーリズム
- ・クリエーター志向、地方回帰志向の若者を対象にした地場産業インターンシップツアーなどのテーマツーリズム
- ・その土地の物語や雰囲気など五感で土地の食文化を体感するガストロノミー（美食）ツーリズム 等

○瀬戸内クルーズの本格展開のほか、JRと連携したディスティネーションキャンペーン、神戸・伊丹・但馬空港を中心としたローカルエラーで結ぶ相互送客観光ツアーなど、陸海空の交通機関と連携した誘客促進に取組みます。

(18) 内外の観光・旅行再開を見据えた受け入れ環境を強化します

○観光地を支える快適な環境整備を図るため、地域の実態に応じて、多言語案内・解説板の充実、キャッシュレス決済対応や通訳ICTサービス、VR（バーチャル・リアリティ）も組み込んだ兵庫の魅力発信などの計画的な基盤整備を推進します。

○ワーケーションスペースの設置やバリアフリー化改修など、前向きな設備投資等を行う宿泊事業者への支援を充実します。

○新しい旅のスタイルや観光ニーズに対応できる観光人材や通訳案内士など今後の観光産業の中核を担う人材の育成に積極的に取組みます。特に但馬芸術文化観光専門職大学から輩出される観光施設経営などの専門人材を活用します。

(19) ワールドマスターズゲームズの開催、大阪・関西万博に関西全体で取組みます

○2022年5月から関西全域で行われる「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」を成功させます。感染防止対策を徹底し、プレ・テスト大会など万全の準備を進めます。

○2025年大阪・関西万博には、関西広域連合によるパビリオンへの参加に加え、神戸の先進医療、姫路の世界遺産、淡路の食文化など、兵庫の地域資源を体験し、味わえるサテライト会場を設置します。本会場とネットワーク化し、バーチャルとリアルの両面から魅力を発信し、県内への誘客を促進します。

4 新たな出会いを生む交流の基盤を充実させます

(20) 県内を快適に移動できる道路ネットワークの整備を進めます

- 大阪湾岸道路西伸部、神戸西バイパス、名神湾岸連絡線など産業物流面での大動脈となる道路の整備を着実に進めます。播磨臨海地域道路は、まずは的形～播但連絡道路間などの優先整備区間から5年以内の着工をめざします。
- 東播磨道や東播磨丹波連絡道路など、基幹道路八連携軸の形成を促進します。また、神戸中心部と北播磨を結ぶ路線など、「ひょうご基幹道路ネットワーク整備基本計画」に掲げた構想路線の具体化を進めます。
- 山陰近畿自動車道、北近畿豊岡自動車道路の整備を進め、日本海側の高速道路空白地帯を解消します。
- 県管理の国道や県道など地域内の交流を支える幹線道路を積極的に整備します。

(21) 新たな物流・交流を生み出す空港・港湾の整備・活用を促進します

- 関西三空港が首都圏空港に伍する空の玄関口となるよう、神戸・伊丹空港への国際定期便就航をめざします。
- 旅客船利用者の利便性・快適性向上と賑わい創出に向け、姫路港旅客ターミナルのリニューアルを行い、瀬戸内クルーズなどの拠点として活用を促進します。
- 姫路港広畠地区の水深14m岸壁の整備、尼崎西宮芦屋港や東播磨港の荷揚げ場や岸壁の改良など、産業・物流を支える港湾の機能強化を進めます。

(22) 地域の公共交通基盤の利用促進を進めます

- コミュニティバスの広域化、自家用有償運送の普及などを組み合わせて交通不便地の利便性を高めます。
- 地域の様々な公共交通サービスの経路検索や支払いが一括でできるMaaSを導入し、自動運転バスなどの最新技術も取り入れながら、誰もがストレスなく移動できる兵庫をつくります。
- 大都市中心部や景観地区へのマイカー乗り入れ抑制などにより、街中に人にやさしい街路を整備します。

Ⅲ 誰もが自分の可能性を広げ、生きがいをもって一人ひとりが輝ける社会をつくる

兵庫の未来を担う人づくりを進めるとともに、誰もが自分の可能性を広げ、能力を発揮できる環境づくりを進めます。光と影をつくらない。誰もが多様な選択肢の中から自ら選び、生きがいを持って輝ける兵庫をつくります。

1 「子育てするなら兵庫プロジェクト」を展開します

(23) 結婚・出産・子育ての不安を解消します

- 若者が出会いから結婚へと安心して進んでいけるよう、若者の就労の安定や住宅定住支援を行うことで経済的な自立を促します。
- 妊娠・出産への不安を解消するため、地域の協力病院との連携体制を構築し、出産前後の高度医療を担う周産期医療体制を充実します。不妊不育に悩む女性と家庭の相談体制の強化や支援を行います。
- 子育ての不安や悩みを共有し、解消していくため、SNSやオンラインを活用した相談体制を強化します。

(24) 待機児童ゼロ作戦をはじめとした子育てしやすい環境づくりを強化します

- 保育所、認定こども園の整備、都市部で開設が容易な小規模保育事業など地域の実情に合わせた多様な受け皿整備や定員の上乗せなどにより、早期の待機児童の解消をめざします。
- 小学校の余裕教室などを活用し放課後児童クラブの待機者もなくします。
- 経験豊富な保育士、児童支援員の育成や専門性の向上、保育士、児童支援員等の処遇や配置の改善など人材確保のための支援の充実も検討します。
- 病児・病後児保育や医療的ケアが必要な子どもを支える医療従事者、保育士などのスキルアップや処遇改善などの支援に積極的に取組みます。
- ライフステージの変化に応じて多様な働き方が選べる環境を整えます。結婚、出産、育児でキャリア形成が途切れることなく、ワーク・ライフ・バランスを誰もが実践でき、第2子、第3子を持ちやすい社会に変えていきます。
- 民間の家事代行サービスやシェアリングエコノミーの活用など、働く女性の家事・育児を支援する仕組みを創設します。

(25) 子育て家庭への経済的負担の軽減を進めます

- 国の幼児教育無償化の今後の動向や子ども庁の創設などを踏まえ、保育、幼児教育、医療など子育て家庭の経済的負担の一層の軽減を検討します。
- 在宅育児世帯に対して、子育て支援サービスを利用できるクーポン券を配布するなど、家庭で育児を行う保護者の心理的・経済的負担を軽減する仕組みを検討します。

(26) 向こう三軒両隣の精神で地域全体で子育てを支えます

- 子育て支援機関や団体の活動拠点である県立こどもの館のブランチを阪神地域に設置します。
- 家族の支え合いによる子育てを進めるため、住宅改修や住宅ローン利子補給の支援等により、三世代同居・近居の環境整備を促進します。
- まちの子育てひろばの機能強化など、親子が気軽に集って、子育ての悩みについて気軽に話し合い、少しの息抜きができる場づくりを強化します。

2 個性を育み能力を伸ばし、多様な選択ができる教育環境をつくります

(27) 学びの質を高め、社会でたくましく生きぬくための学力・能力を育成します

- 全国に先んじて取組んできた兵庫型教科担任制を活かしながら、地域の実情に応じて、段階的に30人学級編成の導入を進め、学びの質を高めます。当面は、小学校5～6年生の35人学級編成の導入を適切に行います。
- 経験豊富なスーパーティチャーの配置・派遣を強化し、学力向上に取組みます。合わせて、授業準備等の業務を補助するスクール・サポート・スタッフの配置を進めます。
- 世界で活躍できる専門人材を育成するため、大学の専門課程を高校段階で学べる高校-大学接続プログラムを実施するモデル校を増やし、強化します。
- データサイエンスに基づく課題分析や、AI・IoT等の社会実装による課題解決など、新たな価値を創造する人材育成に向けた兵庫型 STEAM※教育をさらに展開します。
※ Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(ものづくり)、
Art(芸術)、Mathematics(数学)を統合的に学習する教科横断型の教育

(28) 多様な価値観を尊重できる子どもを育てるため、体験教育や対話重視、探求型教育を広げます。

- 他者を思いやることができ、多様な価値観を尊重できる子どもを育てます。全国に先んじて行われた子どもの発達段階に応じた体験教育について、地域の意見を踏まえ、時代に合わせたものに進化させます。
- 自然体験や異文化体験などを通じた多様な価値観を育て、生きる力を育む保育・幼児教育の展開を支援するなど、就学前教育の質を高めます。
- 義務教育課程から、対話重視、探求型の教育手法も積極的に取り入れ、発想力、コミュニケーション能力を高め、世界で活躍できる人材を育成します。

(29) 「ICTサポートチーム」の創設など、デジタル化をはじめ社会の変化に適応した教育環境を整備します

- 大学生や民間のIT人材を活用した「ICTサポートチーム」を教育事務所単位で結成し、授業のオンライン化や教員の技術支援を行うことにより、デジタル教育を抜本的に強化します。

○各学校と直結した高速通信ネットワークと ICT 機器を活用し、個々の児童生徒に応じたきめ細やかな学習支援を行うなど学びの質を高めます。

(30) 多様な選択肢の中から自分で学びたいことを選べる学校を創ります。

○増加の一途にある子どもの不登校の問題に取組みます。ICTを活用し不登校の児童・生徒を対象とした学びの場づくりと不登校児童生徒へのきめ細かく柔軟な対応を両輪とする「不登校ゼロ作戦」を展開します。

○夜間中学の新設や既存夜間中学の広域的受け入れを支援します。

○建学の精神に基づく特色ある教育を行う私立学校の支援を強化します。私立高校等の就学支援金は、まずは低所得者世帯に重点化して県独自加算を実施します。高校生の公私比率は堅持を原則とします。

3 誰もが持てる力を発揮できる地域をつくります

(31) 障害の有無などの違いに関わりなく、誰もが安心して生活できるユニバーサル社会づくりを進めます

○意思疎通や移動の困難さを抱える聴覚障害者や盲ろう者などへの理解促進のための講座の開設や手話通訳士などの人材育成、点字普及などを進めます。

○生きづらさを抱え、孤立しがちな人に、もっと目を向けます。精神障害やひきこもり、不登校など心の健康を損なっても孤立することのないよう、地域の支援体制を充実します。

○障害児者一貫したリハビリテーション体制の強化を進めます。障害者支援施設の個室やユニット化など入所施設の充実に取組むなど障害者の生活支援・自立支援を進めます。

○障害者の重度化、高齢化や親亡き後を見据え、地域での生活支援の中核的な役割を担う医療支援型のグループホームなどの整備を積極的に支援します。

○障害者や高齢者が安心して鉄道を利用できる環境を整えます。一日乗降客数3千人以上の鉄道駅舎のバリアフリー化を完成させます。ホームドアについては、駅の乗降客数だけでなく、事故発生件数も考慮して設置を進めます。

(32) 生活困窮者・世帯、ひとり親家庭などの自立に向けた生活、福祉、就労、住宅、教育など総合的に支援します

○ひとり親の生活の負担軽減に加え、ひとり親家庭の就業を支援します。就職に有利な資格や技能習得を支援し、自立を促進します。

○80代の親が家に引きこもる50代の子どもの生活を支える「8050問題」に向き合います。市町と連携して実態の把握に努め、問題解決への道筋を考えます。

○介護や幼い家族の世話などを引き受けている若者（ヤングケアラー）対策に教育と福祉の両面から取組みます。

- 家庭で余っている食品を持ち寄り、福祉団体・施設等に寄付するフードドライブの仕組みを構築します。子ども食堂の開設支援や子どもの就学支援、学習支援などにも取組みます。
- 刑務所出所者等への就労支援により、再犯を防止し、刑務所に戻さないための取組を進めます。
- 低所得者、ひとり親、独居の高齢者など、住まいの確保に不安を抱える方が、円滑に入居できるセーフティネット住宅の整備を促進します。

(33) DV、差別、人権侵害を見逃さない社会をつくります

- DVから逃れ、自立への第一歩の拠点となるシェルター開設を支援します。相談体制や民間・NPO団体などの活動を支援します。
- 人権侵害、部落差別、拉致問題、犯罪被害者や性的マイノリティの方々への差別など、身近な人権課題への正しい理解を普及します。増加するインターネットへの差別的な書き込みに対しモニタリング等の対策を強化します。

(34) いじめや児童虐待を許さない社会を築きます

- いじめ未然防止、早期発見、早期対応、フォローアップまで行う体制を地域や法律関係者などが参画して構築します。
- こども家庭センターに新たな機能（在宅育児家庭への訪問型の育児相談機能等）を加えた「こども家庭総合支援センター（仮称）」を整備するなど、児童虐待対策等を強化します。
- 専門人材の育成、地域の企業との協働や職員の対応能力向上を図り、こども家庭センターの機動力・専門性を向上させます。

4 芸術やスポーツの担い手が生き生きと輝き、文化として地域に根付く環境をつくります

- #### (35) 芸術や伝統文化を守り、育て、地域で身近に楽しめる環境を充実します
- 「心のビタミン」と言われ、暮らしに彩りを与える芸術文化が身近に感じられる文化力の高いまちをつくるため、県民による芸術文化活動団体が取組む活動を支援します。動画配信も含め多様な芸術文化の鑑賞機会を作ります。
 - 学校や公共施設に出向き、若い世代の体験の場を積極的に提供し、芸術文化の担い手の裾野を広げます。
 - 芸術文化センター、県立美術館、陶芸博物館、歴史博物館、考古博物館など県立施設ならではの多彩で魅力的な公演、企画展、体験型の催しを実施します。
 - 地域のお祭りを盛り上げます。地域の伝統行事や伝統文化の再生・活性化に取り組む人を応援します。各地にある文化会館機能を充実させます。

- (36) 誰もがスポーツを楽しみ、挑戦できるスポーツ王国・兵庫をめざします。
- 兵庫で活躍し、世界に羽ばたく未来のアスリートの発掘、活躍を支援します。
 - 大規模大会の誘致や競技人口の裾野拡大、競技力向上を図るために全県スポーツ拠点のリノベーションを計画的に進めます。誰もが健康づくりのために気軽にスポーツや運動を行える地域の拠点を整備します。
 - 県内すべての小学校区に設立された地域スポーツクラブ（スポーツクラブ 21 ひようご）について、運営体制の強化、指導者の育成、企業・団体との連携促進等により活性化させます。
 - 障害者スポーツのさらなる振興を図るためのトレーニングセンターの整備を進めます。

IV 自分らしいライフスタイルや働き方が叶う環境をつくる

「みんな違って、みんないい。」一人それぞれの価値観に応じた自分らしいライフスタイルや働き方がかなう地域をつくります。誰もが生き生きと活躍でき、共生できる社会づくりを先導します。

1 新しいライフスタイルに応じた多様な働き方ができる環境を整備します

(37) 働き方を変え、豊かさが実感できるライフスタイルが広がる社会をつくります

- ひょうご仕事と生活センターを中心として、県内全事業所に働き方の見直しを呼びかけ、テレワーク、時差出勤、長期間勤続者に、1ヶ月以上の休暇を与える長期休暇制度の導入など多様な働き方を選択できるよう促します。
- 短時間就業、副業・兼業、半農半Xなど、希望に即した働き方ができる環境を整えます。
- テレワークは、大都市集住のリスクを軽減する有効な手立てと考えられることから、コロナ禍が過ぎても普及を促進します。
- 住所地以外にも仕事や生活の拠点を持ち、都市と農山漁村を往来する「二地域居住」を積極的に進めます。
- 職業訓練の充実等により非正規社員の正社員への転換を支援します。また、中小企業従業員共済事業の福利厚生メニューの魅力アップや加入要件緩和により、非正規雇用労働者を含めた中小企業就業者の待遇改善を積極的に取組みます。

(38) 国内屈指の起業・創業環境を整備します

- 神戸に誘致した国連のスタートアップ支援機関(UNOPS GIC Japan)と連携し、SDGsの課題解決に取り組む起業家を支援します。
- 県内大学と連携して若手の起業人材を育成します。小・中・高校でも起業マインドを醸成するプログラムを実施します。
- ビザ制度の柔軟運用や英語の公用語化を図る特区を設け、国際起業拠点地区（インターナショナル・スタートアップエリア）を整備するなど、海外起業家の流入・活躍を後押しします。

(39) 新たなキャリアを形づくる学び直しの機会を充実します

- 再チャレンジや兼業・副業に挑戦する大人を増やすため、働き方の見直しを含め、大人の学び直しを促す仕組みを作ります。リカレント教育に前向きな会社を顕彰するなど、社会全体の学び直しへの意識を高める取組を行います。
- 県内 36 の大学で構成する大学コンソーシアムを核に、転職や企業に必要な専門知識の習得をめざすリカレント教育を促進します。
- 県内の専門学校・専修学校等と連携し、ITスキル、OAビジネス、デザインなど実践的なスキルを身につける機会を広げます。

2 女性、高齢者、障害者、外国人などの活躍を応援します

(40) 女性が能力を発揮し活躍できる場を拡大します

- 固定的な性別役割分担意識の解消に取組みます。男女ともに育児や介護で休暇を取ることが普通になる社会をめざし、男性の育児・介護休暇・休業の取得を拡大します。
- キャリアアップ研修や職業相談・紹介等を行う男女共同参画センターの機能を強化し、女性が能力を発揮し活躍できる場を拡大します。
- 若年女性の就職希望の多い事務系職種やサービス産業とのマッチング機能を強化し、女性の県内就業を促進します。

(41) 生涯現役をめざす高齢者などの活躍を後押しします

- 元気な高齢者がこれまで培った知識、経験を生かし、社会の担い手として活躍できるよう、人材斡旋事業者のノウハウを活用し、中高年技術者の転職・再就職を支援します。

(42) ICT の活用や農福連携などにより障害者の雇用や生活を守り、自立を支援します

- 障害者の雇用に配慮した特例子会社の創設支援、県独自のジョブコーチ制度などにより就職先の開拓、定着率の向上を高めることで、障害者法定雇用率 2.5%をめざします。
- 授産商品のブランド化を進め、インターネット販売を強化するなどにより障害者工賃の向上を支援します。
- ICTを活用した障害者の在宅ワークのスキルアップに取組むとともに、円滑な受発注が行えるシステム導入を支援し、障害者の働く選択肢を増やします。
- 障害者の就業促進のため農福連携を促進します。就農体験から研修、障害者福祉事業所と農家のマッチング、生産効率向上のための設備導入などを支援します。
- 阪神南北地域における特別支援学校の新設を進めます。個々の生徒のニーズに応じた教育の充実や教員の専門性の向上を図るほか、特別支援学校の生徒の卒業後に備えた自立教育、就業支援を充実します。

(43) 外国人も安心して暮らせる多文化共生の地域をつくります

- 国際色豊かな地域として発展した兵庫の強みを活かし、外国人が暮らしやすい生活基盤づくりや地域活動への参画を推進し、多文化共生社会を実現します。
- 外国人県民の日常生活上の課題を検証し、教育、医療、コミュニティ、宗教など様々な面から外国人のライフスタイルに配慮した環境を整備します。外国・外資系企業とそこで働く外国人等が集まり住みやすい地域をつくります。
- 外国人労働者の受入を希望する企業に対する相談体制の構築や、技能実習生の技能検定受検の支援など、外国人労働者を円滑に受け入れる環境を整備します。

V 新しいチャレンジがわき上がる躍動経済をつくる

コロナ禍での経済の停滞からの早期脱却を図るとともに、中小企業の新展開支援や先端技術の開発、起業・創業などに積極的に挑戦し、日本、世界をリードする躍動する兵庫経済をつくります。

1 変化に強い産業構造を構築します

(44) 世界レベルの成長産業拠点を形成します

- スーパーコンピュータ富岳や放射光施設 Spring-8 をはじめとする先端科学技術基盤の集積を地域産業の成長源として活用します。
- 神戸から播磨にかけての金属素材産業の集積に、M I（マテリアルズ・インフォマティクス＝情報技術を活用した新素材開発）を加味し、次世代素材生産の拠点となる「メタルベルト」の形成を図ります。
- 健診データやカルテ情報等を匿名加工したビッグデータの利用を促進し、医療ロボット開発、新薬開発等を促進するとともに、個々人の健康増進につながるサービスを提供するなど健康医療産業のイノベーションを進めます。
- 脱炭素社会構築の切り札ともいえる水素エネルギーの実用化を加速するため、県内の企業や大学等と連携して水素の製造、輸送、保管、利用に関する技術開発を進めます。港湾施設の整備など液化水素大量輸入プロジェクトの実現にも協力します。
- 燃料電池、蓄電池の普及にあわせて車載用電池のリユースやリサイクル体制を強化するなど、新たな電池産業の中核拠点の形成をめざします。
- 優れた産業基盤や生活環境に加え、県内全域で利用可能な安価で高速の専用通信回線を活かし、県内各地へのオフィスや産業施設（物流センター、データセンター等）の誘致を促進します。

(45) 企業の危機管理の強化を支援します

- サプライチェーンの強化・再構築に取り組む企業を、設備投資補助、雇用補助、法人事業税減免などにより支援します。
- 大規模災害時における企業経済活動の継続を図るため、B C P（事業継続計画）の策定や同計画に基づく訓練を行う企業を支援します。

2 地域産業の新展開を支援し、元気企業を育てます

(46) 中小企業のコロナ禍からの再起支援やデジタル化支援を強化します

- 地域経済の要となる商工会議所、商工会等の体制強化に向け、専門人材費、経営指導員研修費、中小企業向け助成費などの支援を充実します。

- 県内中小企業のデジタル化に向け、スマートものづくり支援センター(神戸・阪神・播磨・但馬)を核としたデジタル技術の実装支援や、兵庫情報ハイウェイ利用の技術的支援等を強化します。
- 超スマート社会に向け、業種業態に応じたスマート・インダストリー・モデル地区を整備します（例：地場産業では企業を跨いだ一連の製造工程に IoT を導入、商店街では顔認証など最先端のキャッシュレス決済を導入 等）。
- 企業経営や地域経済に SDGs の考え方を浸透させていくため、UNOPS GIC Japan や商工会議所・商工会と連携し、環境や社会課題への向き合い方等を学ぶサステナブルスクール（複数回の連続講義）を県内各地で開講します。
- 中小企業の事業承継を進めるため、県内外のやる気のある若者とのマッチングの仕組みを整えます。承継した企業を甦らせる第二創業を応援します。

（47）地場産業の新展開など五国発のブランド戦略を展開します

- 真珠加工、ケミカルシューズ、播州織、三木金物、釣り針、皮革製品、豊岡鞄、いぶし瓦、線香など、兵庫には生活文化を支えてきた数々の地場産業が栄えています。これらに新発想のデザイン導入や業界融合の新商品開発を促進し、五国発の新たな世界ブランドとしての発展を支援します。
- 音楽、演劇等の舞台芸術、茶道、華道等の伝統文化に加え、様々なライブ、スポーツ、e スポーツ、映画、サブカルチャーなど、生活に彩りを与える文化活動をコンテンツ産業として育成します。
- 金属加工、木材加工をはじめ熟練した匠の技術を引き継ぐため、ものづくり大学校の体験講座メニューを拡大します。熟練工が小中学校を訪問するキャラバン隊の派遣も再開します。

3 力強い農林水産業を確立します

（48）農林水産業のスマート化を加速します

- 施設園芸における環境制御技術、自動草刈り機や自動水管理システム、ドローンによる薬剤散布の導入など、農業のスマート化支援を強化します。
- 肉用牛繁殖経営における発情・分娩監視システムや、酪農経営における搾乳ロボットの導入など、畜産業のスマート化支援を強化します。
- 森林資源を把握するための航空レーザ計測や、原木の品質を自動判定するセンサー機器の導入など、林業のスマート化支援を強化します。
- AI による乾ノリ等級付けの自動化や、ICT を活用した漁場環境情報の収集など、水産業のスマート化支援を強化します。

(49) 農林水産業の経営基盤を強化し、競争力を高めます

- 都市近郊の立地を活かした野菜の生産拡大や、農業の法人化と経営力の強化、企業参入の促進、農地の集積・集約化を進め、競争力を強化します。
- 雇用就農の拡大や農作業の分業化等を通じて、子育て世代の女性や元気な高齢者、農福連携による障害者など、幅広い人材が農業に参画できる環境をつくります。
- ひょうごブランドの再構築と新ブランドを育成します。但馬牛・神戸ビーフの改良のためゲノム育種を導入、高温対策や生育診断技術の開発により酒米「山田錦」の品質を向上させます。地球温暖化に対応した水稻オリジナル品種を育成します。
- 県産木材の生産基盤の強化に向け、団地化、林内路網の整備、高性能林業機械の導入等を積極的に支援します。
- 次世代型の漁船への転換、最新型の設備への更新などの支援により栽培漁業の振興に取組み、安定的な漁業経営を推進します。魚礁漁場、増殖場の整備、藻場や干潟の再生にも取組みます。
- 農林水産業の発展を支える農協、漁協、森林組合や土地改良区など農林水産団体の活性化を支援します。

(50) 県産品の流通を広げます

- 安全・安心で、環境に配慮した生産方法等の特長をもつ「兵庫県認証食品」の県内流通を広げます。オンラインも含めた海外プロモーションやトップセールスにより、兵庫の食材の海外輸出を拡大します。
- コウノトリ育む農法をモデルに、兵庫全体を環境創造型農業の先進地にします。五国の多様な風土が育む安全安心の農水産物の学校給食での利用を徹底するなど、地産地消をさらに拡大します。
- 兵庫のり、酒米山田錦、丹波黒大豆、岩津ネギ、淡路島たまねぎ、淡路島3年トラフグ、サワラ、カキ、アサリ、有馬山椒、ローカルサーモンなど、多種多様な県産食品の産地拡大を支援するとともに、ナマコ、アジアカエビ、などさらなるブランド食品の育成を進めます。
- 木造住宅の建築促進に加え、公共施設、オフィス・店舗、福祉・介護施設等の木造木質を促進します。公共施設での県産木材使用量は、2030年までに現在の2倍以上に拡大します。

(51) 農地の保全・活用に向け、「耕作放棄地ゼロ作戦」を展開します

- 水害防止、生物多様性保持、景観形成等の多面的機能を発揮する農地と農村集落を次代に引き継ぐため、兼業の農家を含めたすべての農業者の活動を支えます。
- 耕作放棄地や放置林を公的に管理し、企業への貸付等により利活用を促進します。再生不可能な農地は里山として再整備します。これにより、耕作放棄地の荒廃を防止します。

VI 県民のいのちと暮らしを守る安全先進の兵庫をつくる

頻発する風水害や南海トラフ地震、感染症などあらゆる危機に対応し、県民のいのちと暮らしを守り、どこよりも安全安心で快適な兵庫をつくります。

1 県民のいのちと健康を守る基盤を整えます

(52) 健康寿命の延伸をめざし、県民の健康づくりを支援します

- 疾病の早期発見・早期治療を推進するため、巡回健診システム等の導入により誰もが定期健康診断を受けられる環境を整えます。
- 全国平均より劣っているがん検診の受診率向上を図るため、市町や企業と共同し検診等費用の助成制度を充実します。
- がん治療による外見変貌を補完するアピアランスサポートの強化などにより、がん患者の治療と仕事の両立や治癒後の円滑な職場復帰のための環境整備を支援します。
- 県民の健診・医療などの健康ビッグデータを活用し、疾病の要因分析や予測を行う健康づくり支援システムを開発します。

(53) 認知症の予防・早期発見と認知症ケアの連携体制を強化します

- 認知症の予防、早期発見・早期対応をきめ細かく実施するため、県内全市町での認知症検診を2025年までに実施します。認知症への理解促進、人材育成のための研修も充実します
- 身近な診療所で認知症の相談や受診ができるよう、小学校区単位を基本に認知症対応医療機関の登録を促進します。高度な医療措置が必要な場合は、専門医療機関である認知症疾患医療センター（県下25機関）につなぎます。

(54) 自殺者ゼロを究極の目標に、自殺防止対策などこころの健康づくりを進めます

- 「いのちと心のサポートダイヤル」の24時間対応の相談体制を強化します。特に若者や妊婦などが気軽に相談できる体制を充実します。身近なところで相手の心に寄り添う「いのちと心のサポーター」を養成します。
- コロナ禍で孤独や孤立により不安や困難を抱える女性や若者を支援する相談事業や居場所づくりを進めます。
- 企業のメンタルヘルス対策を支援するためカウンセラーの派遣を充実します。

(55) どこに住んでいても充実した医療を受けられる体制を整備します

- 救急医療、小児医療、がん医療、脳卒中対策、在宅医療など、医療機関の専門分野の機能分担と連携を進め、地域毎に完結する医療提供体制を構築します。

- 県が修学資金を貸与し養成してきた県養成医師や県採用医師の地域医療機関への派遣などを進め、医師の地域偏在を是正します。
- 県内どの地域においても質の高い治療が受けられるよう、オンライン画像診断などの遠隔診療を具体化します。
- 看護職員などの養成力と資質向上を一層強化するほか、看護職専門の就業相談、マッチングを行う「ナースセンター」の取組を強化します。

(56) 県立病院を中心とした地域医療体制をさらに充実します

- より良質な医療の提供をめざし、各県立病院の機能の高度化を進めます。

[はりま姫路総合医療センター（仮称）]

- ・姫路循環器病センターと製鉄記念広畠病院を統合し、2022年度開院
- ・病床数 736 床

[西宮病院]

- ・市立中央病院との統合による新病院として、2025年度開院
- ・病床数 552 床

[がんセンター]

- ・新たな機能を備えたがん拠点病院として建替え、2025年度開院
- ・病床数 360 床

2 2025年問題を乗り越える「生涯あんしん兵庫プロジェクト」を全力で進めます

(57) 高齢者の介護予防を積極的に進めます

- 通所サービス事業所などで、100歳体操などの運動や知能ゲームなどを使った交流の場づくりに加え、就労的活動を実施することにより、高齢者の介護予防や健康づくりを強化します。
- おいしく楽しい食生活は、介護予防の第一歩です。定期的な歯科検診の受診、オーラルフレイル予防教室の拡大などにより、歯と口腔のケア対策を充実します。

(58) 施設、在宅両面からの介護体制を強化し、最期の時まで自分らしく暮らせる地域をつくります

- 特別養護老人ホームなどを計画的に整備し、2025年までに入所待機者ゼロをめざします。
- 24時間対応の定期巡回・随時対応サービス事業所や看護小規模多機能事業所を2030年までに現在の110カ所を300カ所程度に増やします。
- 今後増加する在宅看護や看取りなど在宅での多様な医療ニーズに対応するため、訪問看護事業所の開設を支援します。在宅も含めたホスピス（緩和ケア）の体制も強化します。

(59) 介護人材の確保・定着、待遇改善を強化します。

- 介護人材の確保・定着を強化します。介護人材が誇りをもって働くよう、一層の待遇改善にも取組みます。
- 介護労働の負担を軽減するため、施設における介護ロボットの導入を積極的に支援します。

3 自然災害から県民のいのちを守り、世界の防災先進地をめざします

(60) 地震・津波対策を急ぎ、南海トラフ地震などに備えます

- 近い将来の発生が危惧される南海トラフ地震への備えを急ぎます。津波防災インフラ整備計画を着実に進め、防潮堤や水門などのすべての工事を 2023 年度までに完了させます。日本海側の津波防災インフラ整備も計画的に進めます。
- 建築物の耐震化を加速させます。特に、大規模多数建築物は 620 棟すべての耐震化を終わらせます。

(61) 総合的な治水対策で頻発する風水害の被害を減らします

- 第3次山地防災・土砂災害対策 5 箇年計画に基づき、治山ダム・砂防えん堤の整備、災害に強い森づくりを着実に進めます。
- 流域ごとに市町と共同で策定した総合治水推進計画により、河川整備はもとより、中上流部の小規模河川整備、農業者による田んぼダム等の貯留力拡大、市町の都市排水路の浸水対策促進も図り、関係者の総力を挙げて治水安全度を高めます。
- 第2次ため池整備 5 箇年計画に基づき、緊急性の高いため池の重点整備を推進します。また、市町と連携し、ため池の安全管理体制を充実させます。

(62) 老朽化する社会基盤のメンテナンスを計画的に進めます

- インフラ・メンテナンス 10 箇年計画に基づき、インフラの維持更新と長寿命化を計画的に進め、社会基盤の安全性を確保します。
- 三次元データの活用、ドローンによる映像点検をはじめ、モニタリング、点検、補修に I C T 技術を導入し、メンテナンスの省力化・効率化を図ります。

(63) 阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かし、地域の自主防災力を高め、災害に対処できるしなやかな地域をつくります

- 避難が必要な時に、支援の必要な高齢者や障害者を取り残すことのないよう、災害時要支援者の避難計画の作成を加速化します。福祉避難所の増設も進めます。
- 道の駅などの交流拠点を身近な防災・避難拠点として活用する取組を支援します。
- 阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝え、災害への備えを広く発信するため、義務教育課程から高校、大学に至るまで、兵庫独自の防災教育を開展します。

- 若い世代や女性の参加を促し、自主防災組織や消防団の体制を強化するとともに活動を支援します。防災士や防災リーダーなどの担い手の育成を進めます。
- 危機管理のヘッドクオーターとなる危機管理庁の創設を国に働きかけます。その拠点を、防災活動・研究に取組む国際機関が集積する兵庫・神戸に誘致します。

4 県民の身近に迫る危機を早期に察知し、安全な地域をつくります

- (64) 地域の身近な異変を察知し、犯罪を抑止します
 - 防犯カメラの設置促進などにより、犯罪のない安全な地域を作ります。
 - インターネットを使った詐欺など特殊詐欺の抑止に力を入れます。
 - 地域の大人が子どもの見守り、声かけを行う「子育て応援ネット」の取り組みを一層充実させます。
 - デジタル技術を総動員し、県民生活の安全の要である交番や駐在所の機能を高めます。
 - 犯罪情報や事故情報を活用し、犯罪回避アプリや見守り活動の充実につなぎます。

(65) 交通事故を徹底的に減らす取組を進めます

- 高齢者、子どもなど交通弱者に優しい生活道路整備を進めます。通学路の歩車分離を進めるなど、子どもの交通安全対策に力を入れます。
- 信号機のLED化を加速し、安全性の向上、省エネルギー化など効率化を図り、新たな交通安全施設の整備につなげます。
- 専用レーンの整備など、自転車で安全に移動できる環境整備を進めます。
- 高齢ドライバーの事故を減らすため、運転免許更新時の認知機能検査体制を強化します。民間と連携して高齢者が安全に運転できる車両の研究開発に取組みます。

5 人と自然との共生を深化させ、快適な環境を創造します

- (66) 低炭素から脱炭素に向けた兵庫独自の温暖化対策を推進します
 - 世界の平均気温上昇を1.5℃に抑える努力を追求する「1.5℃ライフスタイル」を県民運動として展開します。食生活、住生活、普段の移動など様々な側面からエネルギーコストの少ない暮らし方を兵庫オリジナル対策も組み込み、県民に提案し、定着させます。
 - CO₂削減目標達成に向け、中小企業の省エネルギー、創エネルギー設備導入支援の強化やバイオマス燃料の共同調達などに取組みます。
 - 住宅では、照明のLED化や省エネ家電への買い替えと、モノを持たない簡素な暮らしの普及、移動ではカーシェアリングや徒步・自転車への切り替えなどに取組みます。

○住宅用太陽光パネルと蓄電池の同時購入や省エネルギー設備設置などを支援し家庭でのCO₂排出が少ないライフスタイル転換を促進します。

(67) 地域資源を活用した再生可能エネルギーの利用を促進します

○ため池、ダム堤体などを活用した太陽光発電に積極的に取組みます。なお、自然環境に影響を及ぼす太陽光発電や風力発電は、地域で争いの種になることがないよう、県の条例に沿った対応を誘導します。

○燃料電池自動車の普及、水素ステーションの整備など、水素エネルギーの利用に取組みます。将来有望な水素発電の実証を進めます。

○液化水素大量輸入プロジェクトに参画し、姫路港エリアへの水素受入基地の誘致、商業ベースの火力発電利用をめざします。

○兵庫の森の再生と地域のエネルギー自立を進めるため、各地の森林組合と連携して木質バイオマス発電所の整備を進めます。

○自治体出資のエネルギー公社の設立をめざします。再生可能エネルギーによる電力供給の収益で地域の公共サービスを展開する事業体を立ち上げることで、地域経済循環を生み出します。

(68) 暮らしの中での資源循環の取組を強化します

○世界的な問題になっているマイクロプラスチックによる海洋汚染を食い止めるため、企業と連携し、生分解性プラスチックの普及を先導します。

○食品ロスを抜本的に減らすため、フードバンクとフードドライブを一般化します。企業・NPO等と連携し、効率的・効果的な仕組みを整えます。

(69) 豊かで美しい森・川・海づくりを充実し、人と自然との共生も深化させます

○瀬戸内海を豊かな海に再生する取組を進めます。兵庫ならではの春の風物詩である「いかなごのくぎ煮」を一般家庭の食卓に復活させます。

○森林が持つ多面的機能を發揮させるため、間伐が必要な人工林や荒廃した里山林の再整備を進め、豊かで美しい森づくりを進めます。

○種苗の増産や下水処理場の栄養塩管理運転の拡大、海底耕耘や施肥試験、ため池のかいぼりの拡大など、あらゆる栄養塩を循環させる取組を推進し、海域の栄養塩濃度を下限値まで回復させます。

○野生動物による被害を減らし、特にシカは年46,000頭の捕獲に取組みます。処理加工施設の機能強化や鹿肉などの有効活用もさらに積極的に取組みます。狩猟者育成センターの整備を進め、後継者の育成を進めます。

○豚熱、鳥インフルエンザなどの家畜伝染病対策を関西広域連合と連携しながら進めます。

VII 絶えざる改革でしなやかなスマート県庁をつくる

改革の歩みは決して止まるものではありません。仕事のやり方を変え、単なる「コストカットではない」、県民サービスの向上を至上命題に行財政改革を進め、骨太でしなやかなスマート兵庫をつくります。

参画と協働の理念を継承発展させ、「チーム兵庫」をモットーとして常に県民と共に県政を推進していく、「扉が開かれた県政」をつくります。

1 県民ニーズに的確に対応するための行財政改革を徹底します

(70) 改革と新たな施策展開を両立させ、しなやかで、スマートな県政を進めます

○民間経営の視点も十分に取り入れながら、知事給与カットの継続をはじめ、行財政全般にわたる総点検を行い、2021年度中に改革内容と工程を示す行革推進計画を策定します。

○県の貯金残高を増やすことを目的化しません。時代の変化や県民ニーズを踏まえ、必要なサービスは重点的に取組む「選択と集中」を基本に改革を進めます。

そのため、行財政運営条例を改正し、必要な行革推進計画を策定し、実行する枠組みを構築します。

○各種の施設整備事業は、必要性を十分に検討します。現庁舎の耐震性に問題がある県本庁舎の再整備についても、デジタル時代にふさわしい県庁体制を視野に基本計画を再点検し、慎重に判断します。

○施設利用、補助金をはじめ行政手続きのデジタル化を進め、県民の利便性向上と事務の省力化・効率化を図ります。

【兵庫県の行財政改革の取組経緯】

兵庫を襲った巨大災害・阪神・淡路大震災の直接被害総額は約10兆円で、その復興に国、自治体、民間等の資金約16兆円が投じされました。

兵庫県の財政負担は、国の支援措置はあったものの、2兆3千億円に膨れ上がり、1兆3千億円を県債（借金）で賄うとともに、財政調整基金（貯金）はほとんど使い果たし、その他の基金も多額の取り崩しを余儀なくされました。

兵庫県では、震災で悪化した財政を立て直しながら、未来をひらく施策を積極的に展開するため、全国初となる行財政構造改革推進条例（H20）を定め、県議会の議決を得ながら、計画的な改革を進めてきました。

19～30年度で定員を3割削減（削減率全国1位）し、知事はじめ職員給与のカットも行ってきています。

- ・国家公務員を基準とする自治体の給与水準を示すラスパイレス指数（R2）は、
500万人以上の9都道府県の中で、兵庫県は99.8で下から2番目の8位、
- ・大阪府は100.7で6位、最下位は北海道で99.2

その結果、目標としたH30年度において収支均衡予算を達成しましたが、いまだ震災復興にかかる県債残高は解消されないことから、引き続き改革を進めていきます。

2 地方分権改革や規制改革を先導します

(71) 関西広域連合への権限移譲や県独自の規制緩和等を進めます

- 関西広域連合の機能を強化し、関西府県の連携を強めます。国から関西広域連合への権限移譲をより強く求め、地方分権を先導します。
- 特区制度の積極的な活用や国への規制改革の提案を引き続き進めます。県・市町条例による独自規制の見直し等を進めてきた県の規制改革推進会議を積極的に活用します。

3 参画と協働を継承発展させ、「扉が開かれた県政」を進めます

(72) 県民との双方向での対話の機会を充実・強化します

- 様々な活動を展開されている団体・グループや個人との車座での直接対話を毎月1回は行うほか、街頭などの県政報告の場を積極的に設け、地域の今の課題を県民と対話し、意見を県政に反映します。
- これまでの公聴ツールに加え、県政に関する県民との意見交換を幅広く行うウェブサイトなどを活用し、「声なき声」といわれる県民の声を引き出し、しっかり受け止め、県の政策形成に活かします。
- 全職員が広報・広聴マンとしての役割を果たせるよう人材育成を強化します。特に県幹部については、地域に積極的に出向き、県民との対話を重ねる仕組みをつくります。「バーチャル You-Tuber」の活用などデジタルコンテンツを積極的に活用し、県の情報発信力を高めます。

(73) 県民の地域づくりへの参画を支援します

- 行政主導ではなく県民主導のまちづくりを進めます。DIY (Do It Yourself) を旗印に、県民が自分たちの力で自分たちの地域をつくる取組を支援します。
- 自治会、婦人会、老人会等の地域団体やボランティア団体、NPOなど、地域貢献や地域課題の解決に取組む意欲のある団体の活動を支援します。
- 大学生の人数が全国有数である兵庫の強みを活かし、県内大学とも連携して大学生が社会課題の解決に取り組む仕組みを充実します。
- 県民が IT を中心としたテクノロジーを活用し、地域の課題を解決するシビックテック活動（シビック(市民)とテクノロジー(技術)を掛け合わせた造語）を支援する事業を創設します。
- 幅広い県民の参画を得ながら、今後の兵庫づくりの羅針盤となる将来ビジョンを2021年度内に策定し、県民と共にその具体化に取組みます。

4 県庁に新たな風を吹き込みます

(74) 女性や民間人材の登用を進めます

- 女性副知事の登用や、民間人材の県幹部への登用など、職員の多様性を広げ、これまでにない発想や取組の創出につなげます。
- あらゆる場面における女性の意思決定への参画を促進し、リーダー的立場で活躍する女性を増やします。そのモデルとなるよう県では 2025 年度の女性管理職比率を 30% (2020 年度 23.5%) に引き上げます。

(75) 県職員の働き方改革を推進します

- 新たな課題に創造的に対応していくため、前例踏襲や慣例主義から脱却し、新たな政策立案や制度運用に挑戦する職員を育成します。現場主義の徹底や民間企業との人事交流、シンクタンクへの派遣など、職員の政策形成能力を高める取組みを強化します。
- テレワークやオンライン会議の積極的な活用、ワーク・ライフ・バランスの徹底など、職員の働き方改革を強力に進めます。